土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

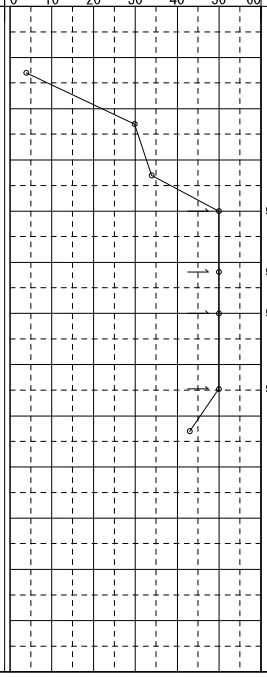
調査名	砂防激甚災害対策特別緊急事業に伴う測量・設計業務委託（中ヶ原川）橋梁
事業・工事名	
調査目的及び調査対象	

ボーリング名	Bor.2	調査位置	広島県呉市安浦町下垣内	北緯	34° 18' 05.7735"
発注機関	広島県西部建設事務所　呉支所	調査期間	令和2年10月23日～ 令和2年10月27日	東経	132° 42' 47.6533"
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 132.54m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	8.00m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦D1-B58 / エンジン：NS-110 / ポンプ：東邦BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日
1	130.94	1.60		礫混り砂質土		淡褐	rd2		盛土。細～粗粒の砂・砂質土。φ5～40mmの角礫・亜角礫が不規則に混じる。	
	130.74	1.80		有機質砂質土		暗灰			旧耕土。細粒の砂質土。有機物混り、小礫点在する。	
2				礫質土		淡灰褐	rd4		土石流堆積物。少量の粘性土分を含んだ細～中粒砂。φ5～30mmの角礫が混じる。深度2.70m付近に長さ15cmの硬い転石を挟む。	
3	129.04	3.50								
4				転石混り礫質土		淡黄褐			土石流堆積物。地山の砕屑物を起源とする堆積土砂。細～中粒の砂・砂質土。φ5～70mmの角礫・亜角礫と長さ10～40cmの岩片状又は棒状の転石が混在する。礫・転石の基質は、流紋岩が多い。岩質は緻密で新鮮。削孔水は断続的に逸水し、逸水が続く。	
5										
6	126.44	6.10								
7				礫質土		淡黄褐	rd4		土石流堆積物。少量の粘性土分を含んだ細～粗粒砂。φ5～40mmの角礫・亜角礫が混じる。深度6.30m、深度6.70m付近に長さ9～20cmの転石を挟む。礫・転石の基質は流紋岩が大半で、花崗岩・砂岩も確認される。岩質は全体として風化した礫や転石が多くなる。削孔水は断続的に逸水する。	
8	124.54	8.00								
9										
10										
11										
12										
13										

標準貫入試験

深度―N値図



N値	深度 (m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
4	1.15	2	1	1	4		
	1.45		60	140	300		
30	2.15	2	8	20	30		
	2.45				300		
34	3.15	8	8	18	34		
	3.45				300		
50以上	4.00	貫入不能			50	0	
					0		
50以上	5.15	50			50	80	
	5.23	80			80		
50以上	6.00	貫入不能			50	0	
					0		
50以上	7.35	18	20	12	50	250	
	7.60			50	250		
43	8.15	12	12	19	43		
	8.45				300		

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
1.15	P-1	⊖		
1.45				
2.15	P-2	⊖		
2.45				
3.15	P-3	⊖		10/23
3.45				
5.15	P-4	⊖		10/24
5.23				
				10/26
7.35	P-5	⊖		
7.50				10/27
8.15	P-6	⊖		
8.45				